

Monthly Report

2021年3月号

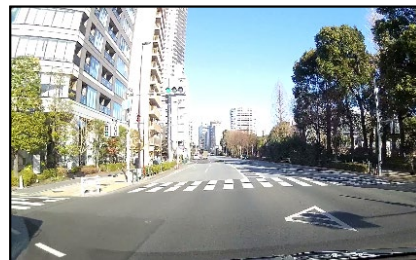
特集

安全速度について ～アクセルオフ～

警察庁の発表によれば、昨年は、全国の交通事故死者数が大きく減少する一方で、東京都の死者数は前年を22人、16.5%増加したとのことです。

この増加原因の一つに、コロナ禍で交通量が減ったことによる平均速度の上昇があると考えられています。事故は様々な要因で発生しますが、その中でも速度が、重大事故と密接に関係していることは間違いありません。

今月号では、この速度について考えましょう。



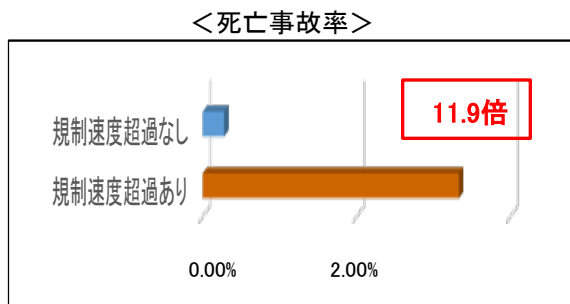
空いている道路では、速度の超過に注意

1. 速度と死亡事故

◆速度超過の交通事故の死亡事故率は、超過が無い場合の11.9倍

警視庁の調査では、規制速度を超過した交通事故の死亡事故率(3.33%)は、超過しない交通事故の死亡事故率(0.28%)の**11.9倍**になっています。*1

あらためて、速度に関する危険性を、認識しましょう。



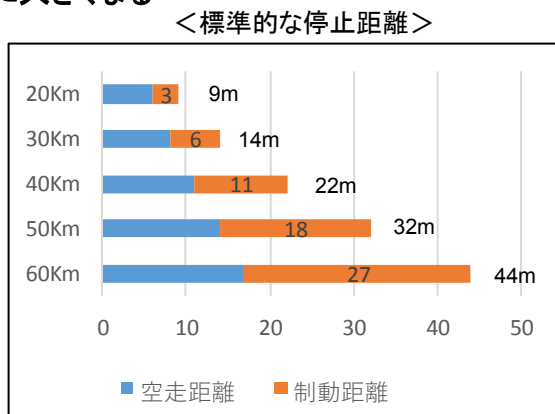
*1.警視庁Webサイト「速度管理の意義 適切な速度管理の必要性」

https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotsu/jikoboshi/torikumi/sokudokanri/igi_hitsuyosei.html
(2021.2.8.閲覧)

◆速度が上がると、止まるまでの距離は加速的に大きくなる

車が止まるまでの「停止距離」は、ブレーキが効き始めるまでの「空走距離」と、ブレーキが効き始めてから車が停止するまでの「制動距離」の合計です。この中で「制動距離」は、速度の2乗に比例して大きくなります。

例えば、前方20m先に横断歩道を渡ろうとしている子供がいた時、時速30Kmで走行していれば停止できますが、時速40Kmだと子供をはねる可能性が高まります。また、速度は制動距離と同様に、衝撃力も大きくなります。



2. アクセルを踏む危険

「行動は習慣化し日常になる」と言われるように、無意識に行った一つの危険な運転が、いずれは重大事故を起こすきっかけになってしまうことに、気づく必要があります。また危険は、錯覚というカタチでも潜んでいます。以下にこれらの事例を考えてみましょう。

(1) 速度を落とす場面なのに速度を上げる危険な走行例

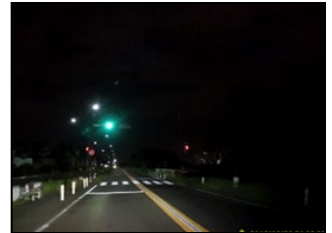
- ・信号が青から変わりそうなので、速度を上げて交差点に進入する。
- ・右折矢印信号が変わりそうなので、速度を上げて右折する。
- ・歩行者や自転車が横断する前に、横断歩道を通過しようとして速度を上げる。



加速して横断歩道を通過する車

(2) 速度を錯覚しがちな危険な場面例

- ・高速道路を走行した後に、一般道を続けて走行するとき
- ・夜間、交通量の少ない道路を走行するとき



スピード感覚がくるいやすい夜間

3. 安全速度を守る

交通事故を防ぐには、法定速度や制限速度を守ることは当然として、道路状況などに合わせて「安全に走行できる速度」で運転することが大切です。

道路交通法においても、「運転者は、道路、交通及び当該車両等の状況に応じ、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転をしなければならない」と定められています。(道路交通法第70条)

◎ 安全速度での走行例

- ・前方の信号が黄色に変わりそうなので、アクセルを緩め速度を落とす。
- ・横断歩道を走行するときは、人が見えなくてもアクセルを緩め速度を落とす。
- ・夕暮れ時の繁華街では、日中よりさらに速度を落として走行する。
- ・雨が降ってきたので、スリップなどに注意し速度を落として走行する。
- ・夜間の走行時は、常にスピードメーターで速度を確認して走行する。

安全速度での運転を必ず習慣にしましょう。

お問い合わせ先

株式会社トヨタレンタリース大阪
リース営業推進部 岡田 一幸
TEL:06-6105-5140 FAX:06-6105-5152